

---

# 愛のうた

愛

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

愛のうた

### 【著者名】

愛

### 【Zコード】

Z5548E

### 【あらすじ】

出逢い系サイトで知り合った彼にいつしか本気になり、もう彼なしで生きていけない…

# プロlogue

## 第1章

### 『出逢い』

マサとの出逢いわメール。

今から約1年前。.

親を亡くして、1人っ子の愛わ1人ぼっちになってしまった。

寂しくて生きる希望をなくして、死にたい毎日。

何のために生きているのか…

生きている意味がない。

寂しい…

寂しくて出会い系サイトを開いた。

自営業をしている4つ上の彼。

この彼とメールやりとりをし会つ事になつた。現れた彼はスースに身を包み、貴禄のある少し怖い系の成金な雰囲気だった。  
それがマサ。

お酒を飲みながら会話も弾み、でも少し緊張もあつた。

ちょっととつつきにくい感じがあつたけど、でも話をしていて人の気持ちが分かる優しい人だと感じた。

初対面だけど、愛わマサに自分の身の上話をした。

1人ぼっちで寂しくて、死にたい毎日なんだ…と、初対面なのに重く暗い話をマサにしちゃた。

マサわ恋の話を聞いてくれた。

その日わお酒を飲んで話をしてバイバイした。

恋わマサを気に入った。

マサも恋を気に入ってくれたみたいで、その後わトントン拍子にデートを重ね、メールも毎日やりとりし楽しかった。

恋わ恋をすると情熱的なタイプで、四六時中彼の事を考え、頭から離れず彼に依存しちゃうんだけど、まだこの時わそこまでわ全然なくて、好きとゆづ気持ちでもなく、気に入っているつてゆづ程度だった。

マサわ毎日結構マメにメールをくれたし、マサと出会いながら寂しかった日々に少し光が差した様だった。

## 第2章 『恋』

初めて会った日から約2週間くらいたった頃、一緒に夜景を見に行つた。

お盆前の暑い夏の日だった。

車の中おしゃべりしながら夜景を見た。

愛がEX-HOLE好きだと聞いたり、わざわざひつじを置いてくれた。

とてもいいムード。

マサも愛の方をみて、なんだか照れる感じ。

見られてこる愛も照れちゃう。

マサ：

「なんか俺高校生みたいになってるなあ

愛：

「ん~? どうして?」

何かを言いたそしだけど言わないマサ。

マサ：

「なんか俺デレデレだなあ

そんな時間が30分くらい続いたかな。

マサ：

「…付合ひつか

マサの言葉に愛も即答で

「うん」と答えた。

そこで初めてのキス。寂しい毎日で死にたいだけだったけど、やつと幸せが来たかも。

マサ：

「俺と付き合つたら苦労すると思うし… 仕事が忙しいからメールもいれられなかつたりすると思つけど大丈夫？」

「大丈夫だよ」つて答えたけど、その時のマサの言葉の、苦労つてどうゆう意味なのかその時わ理解出来なかつたけど、今になつて理解できた。

その日わラブホにお泊まりした。

マサと初めてのエッチ。

今と、初めてした時のエッチわ愛のマサに対する気持ちが全然違つから、最初わ、幸せで仕方ないとかそうゆう感じでわなかつた。

愛わ人を好きになる時、外見とかだけぢやなく中身から好きになるから… 時間がかかるんだ。

だからマサを本気で好きになるまで、それから1か月くらいかかつた。

### 第3章 『本氣』

毎日メールやりとりし、週に2、3回わ会えていた。

付き合つてから2週間くらいたつた頃、地元の花火大会があつた。

愛の家から花火が見えるから、お酒を飲みながら一緒に花火を見た。

ベランダに出て、マサが椅子に座っている上に座り抱っこしてもらつて、かなりラブラブ状態。

親が亡くなつて、愛わ家を売りに出していた。

ここから花火を見るのも今年が最後だろつと感傷に浸つたりもした。

愛わバツイチなんだけど、四年前わこの場所で旦那や子供と一緒にみた。

母親わ3年前に亡くなり、母親が亡くなつてからわ父親と2人で暮らしていた。

去年とおととしわ父親と2人でこの場所から見た。

母親が亡くなる前から父親も病氣だつたし外に行けなかつたから…。

花火を見ながら色々思い出して悲しくなつた。

でも今わマサがいる。

マサ、来年もまた一緒に見れるよね？

来年の今頃わどうなつているのかな…

家族もいなく1人ぼつちの愛わ先の事を考えると不安でたまらなくなる。

またそれから2週間くらい過ぎた頃…

マサが出張で2泊で他県に行く事になった。

愛わ一緒に行きたいと言つて一緒に連れて行つてもうつた。

マサわ自由業で社長だから、そいへんわ自由に出来る。

お泊まりだし愛わ軽く旅行気分でウキウキ。

何着てこいかなあ？

田川張田

台風ですごい雨。日頃の行い悪いのかなあ。  
せっかくお出掛けなのに雨なんてガッカリ。

出張だからマサわスーツ姿。

カッコいいなあ。

みとれる愛。

初日わ夕方近くに出発したから、向こうに着いた時すでに夜。  
マサの仕事わ夜だったから、明日の昼間わ時間があるから東京まで  
足をのばし、お台場に行つた。

ビジネスホテルに泊まつた。

でも台風で雨がすぐて一瞬外に出ただけでビタビタ。

だから外歩けずドライブ状態になぢやて。

海ホタル行つてきた。

昨日泊まつたホテルは狭くて普通のビジネスホテルだったが、今日泊まる事になつたホテルは、すこく豪華で部屋中ピンクの可愛いお部屋。

マサ：

「なんだか新婚旅行みたいだね」

明日になつたらさりげなくならな。

帰りたくないなあ。

夜にわ雨わ小雨になつていて。寝て起きたらあいとゆづ間に朝。

地元に向かう。

この出張につれてきて、マサと2晩一緒に過ごしたらなんだかいつの間にかマサに対する気持ちが今までと変わって、今までの愛じなくなつた。

バイバイした後、寂しくて寂しくて切なくなつた。

今までこんな気持ちになつた事がなかつた。

いつの間にかすくへマサにハマつたみたい。

今までの愛と違つ。

自分でも分かつた。

出張から戻つてきて数日後、マサに会つた。

時間がなくて短時間だった。

マサに抱きついて離れない愛。

マサを見つめてわ赤くなる。

マサ：

「なんか今日わいつもと違う感じ、ビ�したの?..」

愛：

「どうしたんだろ」「自分でも分からないよ。

離れたくない。

でも仕事だから仕方ないよね。

またすぐ会えるよね。

でも次会えるまでの数日間がやたら長く感じて、寂しくて寂しくて死にたくなっちゃって…

会いたくて仕方なくて夜中にマサにメールをした。

仕事で他県に行つてこるマサ。

マサ：

「もうビジネスホテルとつひたけど、今から行こうか?」

本当わ今すぐ会いたいし来てほしい。

でも疲れているのに悪いし、愛わ我慢して、大丈夫だからって答えた。

『今日仕事で二つち来る時、一人で一緒に聴いたEXILEを聴きながら来たけど聴き入つたらグッときたよ』  
つてマサからのメール。

離れていても心わいいつもそばにいるからねって言つてくれて、やさしく嬉しかつた。

その言葉だけでも頑張れると思つた。

人を好きになる気持ちって不思議だよね。

誰の事でも簡単に好きになれるわけじゃないし、気がついたりひとつもなくハマつちゃつてて…

変わすゞへマサにハマつてる。

もつマサぢやなきや絶対ダメだよ。

第4章

『予期せぬ出来事』

マサが恋しくて会いたくて想いが募つてやつと会えた時の嬉しさわ、  
はかりしれなかつた。

このまま幸せが続くと思ってた。

でも想像もしない出来事が数日後起きた。

今まで毎日メールきていて、連絡しない日なんて1日もなかつた。  
なのに前日の夜中にオヤスマニメールが来て以来、次の日丸一日メールが来なかつた。

連絡しない事なんて初めてだからすげく不安になつた。  
電話をしても出ない。

夜中になり、日付が変わつてもメールわ来ず…電話しても留守電。

突然どうしたのかなあ…

愛、何か冷められるような事したかなあ。

いや、何もしてないし…

何かあつた?

その夜わ不安と心配で眠れなかつた。

次の日の朝、マサから電話がきた。

愛：

「どうしたの? 何かあつた?」

実わ…

会社でトラブルが起きて、大変な事態になっちゃって昨日連絡出来なかつたつて。従業員がミスをして大変な損害を被つちゃたらしく…

今日一日動いてみてどうなるかだから、また連絡するねって。

マサの会社も今までとでもうまくいって、だからマサもお金持ちだった。

従業員にまかせて自分わ自由にしていた感じだつたんだけど、これを機にそんな訳にわいかなくなり、今まで頻繁に会えていた状況から一転し、なかなか会えない状況になっちゃたんだ。

多額の損害賠償金を支払わなければならなくなり、マサの会社も莫大な借金をする事になつた。

銀行や知り合いから借り、それでも足りなくてマサわ毎日金策に走つてた。

マサわ自分の彼女からお金�を借りる事に抵抗を感じる人で、愛にわ貸してとか言わなかつた。

でも毎晩寝ないで金策に回つててマサを見てつられなくて、足りない分、愛が貸すかと聞いた。

でも毎晩寝ないで金策に回つててマサを見てつられなくて、足りない分、愛が貸すかと聞いた。

でも断られた。

愛からわ借りれないって。

でもあともう少し用意出来なくて、用意できなければ会社も倒産になつてしまつて…。

この時、出会いから約2か月後の出来事。

マサを信じるけど、でも家も会社も分からないままで大金を貰すの  
わ怖かった。

逃げられたら終わりだから。

会社と家の場所を教えてくれれば貸すからと言った。

マサわ愛からわ借りたくないどずっと言っていたけど、もう借りる  
アテがなかったみたいで、結局愛から借りた。

マサの会社と家を案内してもらつたし、マサを信用して貸した。

マサわ借金を背負つてしまつた事でかなり精神的にもかなりヤバい  
感じだつたし、借用書なんて言つたらマサを信用してないみたいで  
マサを傷つける気がして言えなくて、愛わ借用書なしで貸した。

マサを信用しているから。

愛が貸してあげたから倒産わ免れる事が出来た。

でもこれからわ返済の為、今までみたくわしていられない。

マサも毎日ちやんと仕事をしつかりしないとならないから今までみ  
たく頻繁にわ会えなくなつた。

マサと付き合い始めて、幸せが来たと思ったのも束の間で、この時  
から辛い日々が始まった。

お金を貸してから約1か月後…

マサが出張先で風邪をひいたとメールが来た。

病院に行つてきたけど、まだ高熱があるから寝るねつて夜にメール来たのが最後で、それから3日間連絡がとれなくなつた。

いくらメールしても返事が来なく電話をしても出ない。

もしかして、逃げられた？愛わ騙された？

不安で死にそうになつた。

連絡が来なくなり4日目… いてもたつてもいられなくてマサの会社に行つたが、マサの車わないし中に入る勇気もなく…

家わ前に教えてもらつていたけど、案内してもらつたの夜だつたし、なかなか分かりずらい場所だつたから道が思い出せず、ただ闇雲に車を走らせた。

具合が悪いとゆうメールが最後だつたから入院しているのかなとも考えたが、入院していくてもメールくらい出来るだらうし、こんなに連絡ないなんてやはり愛わ騙されたのか…

もしマサが詐欺師だつたら、出会つてから今までのマサの言葉やすべてが嘘になる。

そんな風にわ思えないし、そんな事わ考えたくない。でも連絡がこない。

もじマサが詐欺師で、全然違うマサの姿を見たとしたら、ショックで愛わ生きていけない。

お金わざりできいい。

マサが愛を騙していたのかそれが問題。

いへり電話をしても出なくて…

でも愛わ今までのマサとの時間が嘘だとわ思えなくて、マサを信じて連絡を待つた。

連絡になくなつてから4日目の夜…

マサからメールが来た。

『連絡出来なくて、ごめん。肺炎起つて入院してた

連絡が来てとりあえずホツとしたけど、入院なんて嘘かもしれない。

話をしないと分からない。

その後電話がきて、マサとやつと話が出来た。

電話の声わいつもと変わらないマサの声。

本当に入院してゐみたいな感じだった。

明日退院するから、明日会いに行くからって。

もし詐欺師だつたらそのまま連絡なんて寄越さないはずだし、明日会いになんて来るわけない。

だからやつぱり信じていいのかな？

会つて話をしないと分からぬし、愛わ次の日を待つた。

：次の日

今退院したからこれから行くからねつてメールが来た。

メールきたから大丈夫ぽい。

約束通り、マサわ会いにきた。

入院中の話も聞いた。

マサの言葉が嘘にわ思えないし、それに会いに来ててくれたのだから信じよつと思つた。

信じられないのなら別れるしかない。

でも好きだから別れるなんて出来ない。

愛わマサを信じる事にした。

ずっと眠れなかつたけど、とりあえず安心したから今夜わ眠れそう。

それからも週1回くらいのペースで会っていた。

1週間会えないのが長くて辛い。

寂しくてじょり泣いてる。

マサと会ってなければとっくに死んでいたと思つ。

マサに会つてマサを好きになつて、生きる希望が持てたから、今まで生きていた。

でもマサに会えない夜は寂しくて死んでしまいたくなる。

もう死にたいと言つた。

マサわ、俺の為に生きてと言つてくれた。

俺が必要としているんだから死んでダメだよつて。

返済が大変で昼も夜も働いてるマサ。

マサも頑張っているのだから、愛も寂しくても頑張らないといけないよね。

でも会いに来てくれた。

X-masイヴ・もしかしたら会えないかなと諦めていた。

2時間しか時間がなかつたんだけビ、仕事をぬけて高速をとばして

。。

短時間でも来てくれた事にマサの愛を感じた。

ホントわお泊まりで会いたかったけど。

贅沢言つたらいけないね。

会えただけでもよかつた。

第7章 『危機』

年があけて新年早々、別れの危機が訪れた。

マサが仕事の付き合いの集まりで、年越しと一緒に過ぐせなかつたから、お正月からマサに不満をぶつけちゃたんだ。

会えなかつたのわ仕方ないとしても、メールぐらーいわマメに欲しきつたのに来なかつたから。

『正月も会えないなんて寂しい。

連絡も少ないし、愛の事わもつびつでもこいの?』

『愛の事、適当だよね』

マサから来た返事のメールの内容わ予想外なものだつた。

『じめん。今後について考える時間をください。  
考えがまとまつたら連絡するよ』

ホントわお泊まりで会いたかったけど。

… なにこれ …

突然なに?

愛の事が嫌いになったの?

付き合い始めてからずっと、マサは愛の心の支えになつてくれてきて、愛の側にずっといるよつて言つてくれていたのに…

愛が俺を必要としてくれるなら俺はずつと離れないでいるよつて言つてくれていたのに…

それから数日連絡がこなくて…

メールをしても返つてこないし電話をしても出でくれない。

嫌われちゃたのかな…

食事も喉を通らない。

辛くて家になんていれない。

一人で海に行き、海を一晩中見てた。

マサが付き合おうつて言つてくれた場所に行き、あの日の事を思い出す。

マサがいなくなつたらもう生きていいく希望もないし生きていたくな  
い。

正月早々愛わ 1人、ぼっち。

毎日泣いて正円を過ぐる。

なんでこんな日に合わせなきゃならないのかな。

マサからわいつ連絡くるんだどう。

待ってる時間つてものすごく長い。

マサのあのメールから4日後、連絡がきた。

電話で話をした。

マサがあんなメールを入れてきたのわ、愛の幸せを考えると俺じゅなくて他の人の方がいいんじゃないかって…

俺わ愛にわ幸せになつてほしいし愛の幸せを一番願つてるかい。

返済の為仕事が忙しくなつてから寂しくて辛い思いばかりさせているし、愛にああしてあげたい、こうしてあげたいって想いわあっても今の俺わ答えてあげられない…

惚れた女を泣かせるばかりで、迷惑かけて自分が情けない。

嫌いになつたわけでわないし気持ちわ前と変わつてないからと言つてきた。

気持ちわ変わつていな事を聞いてとりあえずわ安心したけど…

まだ答えわ出てないって言つた。

愛わ電話口で泣いた。

マサ：

「泣かれるの辛いから、電話するの嫌だった」

そんな事を言われて、涙が出て止まらないよ。

それから3日後…

答えが出たから会いに来るつて。

その日わ偶然にもマサの誕生日だった。

愛わ別れる気なんてない。

あの電話から今までの間愛わマサに自分の気持ちをメールで何度も云えた。

『愛わマサじやなきやダメで、マサがいなかつたら生きていけない。マサが愛の幸せをもえて別れを選ぶとゆうならそれわ違つかない…』

愛わマサの誕生日プレゼントを買いに行つた。

今夜別れる事になるか、どうなるか分からないけど、買つた。

そして夜…

年が明けてから余つの初めて。

結論から言えば、マサわ別れた方がいいと言つた。

今まで寂しくて会えないと思わ マサを責めてきた。

マサの状況をよく分かっていながら寂しさに耐えきれなくて自分の気持ちを押し付けちゃつた。

それの繰り返しだと思づからつ。

借金返済のメドもついてなべてこの状態わざつと続く。

愛わ別れたくないと言つた。

だつたら会社が落ちつゝまで、時間を置いつかつて言つマサ。  
お金返済のメドもたつていなし、落ち着くなんていつになるか分  
からない話。

落ちついた時に一人の気持ちが今と変わりず同じだつたらまだ戻れ  
るつてマサわ言つ。

愛わ今こじで離れたら一度と戻れなくなると思つた。

今マサを離したらもう終わりだと思つた。

絶対離れたくない。

寂しくても我慢するし、マサが落ちつゝまで付き合こながら待つか  
ら別れないと続けると言つた。

マサ：

「待たせるのわ気がひける」

愛：

「愛の事今も前と変わらず好きだと呟てくれたよね？」

愛の事好きなら愛の気持ち分かって」

マサ：

「うん、分かった。俺も好きだから本当わ別れたくないし、じゃあ二人で頑張つていこう。」

「うして別れないで続けていく事になった。

「でも本当にそれでいいの？苦労するよ……」

愛：

「マサが好きだから

マサ：

「あつがとう」

仕事の合間に来たから、時間がなくもつ帰る時間がきた。

愛：

「誕生日おめでとう

プレゼントを渡した。

マサ：

「今日俺誕生日だつけ。

仕事の事で頭がいっぱいで自分の誕生日も忘れてた

プレゼントももらひも言ひてなかなか受け取らない。

マサわ女にお金を出してもらひとかプライドが許せなくてダメな人。

だけど借金返済の二面がどうしても出来なかつた時に、最後の最後で愛からお金を借りた。

お金も借りてるし、こんな状態だつたから受け取りずらい気持ちわ分かる。

誕生日が別れの日にならなくてよかつた。

付き合い初めてから5か月。

マサの誕生日を境に、新たな出発を迎えた。

## プロローグ

出会いの系で知り合った彼との辛い恋…

### 第8章

#### 『出口の見えない暗闇』

それからわ今までよりも会えない日々が長くなつた。

メールも2、3日来ない事がザラにあり、すぐ寂しい。

でも寂しくても我慢すると決めたし、寂しいとか自分の気持ちを押し付ければまた同じ事の繰り返しになる。

だから何も言えない。

寂しいよ。

早く会いたいよ。

：マサの誕生日から3週間。

別れの危機になり別れ話をしたあの日から会つの初めて。

マサわ夜にも仕事が入つていて、その合間に来たから数時間しか時間がない。

「またいつつ。」  
「また来るよ。」  
「もういいやつだよ。」  
「まだいいかな」と……。

時間が過ぎて……。

「このままが上まればいい。」

マサも髪の髪を躊躇して、マサの髪を回した。

マサも胸に顔をつづり、マサの髪を回した。

マサは髪を躊躇して、マサの髪を回した。

マサは髪を躊躇して、マサの髪を回した。

その皿を見つめられたと躊躇されなかつた……。

抱き合つたままの二人。

マサ：

「まだいいかな」と……。

マサ：

「もういいやつだよ。」

マサ：

「また来るよ。」

マサ：

「またいつつ。」

マサ：

「また来週時間とつて来るよ。寂しい思いばかりさせて、ゴメンね

愛：

「…もうこのままマサの腕の中で死んでしまいたい」

マサ：

「愛、そんな事言わないで

マサが帰った後わマサが使ったバスタオルさえも愛しくて…顔をつづ

お風呂上がりにマサが使ったバスタオルさえも愛しくて…顔をつづ  
める。

さつきまで一緒にいたベッドにマサの匂いが残ってる。

マサのぬくもりがまだ体に残ってる。

1人ぢや寂しくて眠れないよ…

毎日一緒にいたい。

マサと会える日わ朝から幸せで夜が待ち通しい。

でも約束をしていても急に来なくなる事がしそつ中ある。

約束の時間が近づいても連絡がこなくて… 携帯の前でひたすら連絡を待つ。

待ちくたびれた頃、平井堅の着つたが流れる。

マサから電話の着信音。

マサ：

「愛、ごめん仕事がまだ終わらなくて今日行けそうもなくなっちゃた」

愛：

「じゃあこいつ会えるの？」

マサ：

「明日こないだよ」

こんな風に、約束が仕事の都合で延び延びになる事がしあう。

会えてもほとんどいつも短時間だし、疲れてるマサに悪いからいつも行けないし、こつも愛の部屋で会つだけ。行つたりしたけど、今わそれが出来ない。

借金背負う前わ普通に休日わ「テー」とし、飲みに行つたり色々なところへ行つたりしたいし、早く一緒になりたいから1日も早く借金を戻したいと言つて、マサわ休みなしで昼夜働いてこる。返済のメドがつしまでずっとこの状態が続く…

早く前みたいに戻りたいし、愛と早く一緒になりたいから1日も早く借金を戻したいと言つて、マサわ休みなしで昼夜働いてこる。

マサの辛さがよく分かる。

でも愛も寂しくて辛い。

出口の見えない暗闇にいるよつて、いつになつたら明かりを見れるのか。

マサを待ち続けて、報われる日が来るのか。

先の事を考へると不安でたまらない。

こんなに寂しくて辛い想いをするくらいなら死んだ方が楽…

死にたい。

でもマサに会つてマサの顔を見ると死ねない。

死んでしまつたら、もつマサの顔も見れないしぬくもりを感じる事も出来なくなる。

そんなの嫌だよ。

でも寂しくておかしくなりそうだよ。

マサ、助けて。

別れの危機から約2か月後、愛の誕生日。

愛：

「誕生日、少しだけでもいいから顔を見せてほしいな

マサ：

「愛の誕生日わ来るつもりでいるから大丈夫だよ

いろいろ忙しくても、イベントわ必ず時間をとつて会こなきてくれる。

マサ：

「プレゼント何かほしいものある？」

愛：

「マサの愛」

マサ：

「言つと思つた（照）」

愛：

「ホントに何もいらなーよ。マサが会いにきてくれればそれがプレゼントだよ。ゼントだよ。

…誕生日わ抱いてほしいな。」

なかなか会えない日々が続き、会えても短時間が続いていて、最近抱いてもらつていなから…

マサのぬくもりが恋しいよ。

…誕生日の日。

約束通りマサわ会いに来てくれた。

プレゼントとケーキを持って来てくれた。

夜、仕事が入っているから朝までわ一緒にいれなかつたけど会いに来てくれただけでとても幸せだよ。

来年の誕生日もこうして一緒にいれるかな。

マサ：

「愛、大好きだよ」

マサの優しい言葉に包まれて、抱かれた。

このまま時間を止めたい。

マサにお祝いしてもらえて最高の誕生日になつた。

愛、28歳。

第10章

《温泉旅行》

マサわこの半年毎日休みなしで昼夜働いているから疲労もかなりたまつていて、体調を崩す事が多くなつていてる。

会える時間もいつも短時間だから、一緒にお出掛けや外デイトもこの半年していない。

こつも愛の部屋で会うだけ。

でもどこも行けなくとも、マサに会えるだけで幸せだし一緒にい  
れば場所なんてどこでもいい。

でももつもつたまに一緒にどこかに行きたい。

マサの疲れもとつてあげたいし、癒してあげたい。

「泊まりで温泉でも行きたいね

」

マサ：  
愛：

愛：

「行くつよ。1泊くらい時間とれない？」

マサ：

「んーでも温泉行くに先立つものも必要だし、まつ少し待って

仕事の儲けわ全て返済にまわしてるので、余裕がないマサ。

愛：

「愛が出るか？」

マサ：

「…愛のお金で金のへ行くわちよつと…」

待っていたらいつ行けるか分からぬ。

マサわ体調も悪いし明日どうなるか分からぬ日々だから…

行ける時に行つておかないと一度と行けなくなる気がした。

マサの仕事のスケジュールを見て、行く日を決めた。

旅行田村約2週間後。

待ち通じて待ち通じてたまらない。

早く行く日になになしきなあ

でも仕事の都合でギヤンセ川はなり得しないかがなり心配たつた

そして案の定、以前に

卷之三

愛

「あ、うれしうにしうのこ…… ど、うして？」

大きな仕事をもらつたんだけど、その仕事をやるのに資金繰りがうまくいかないらしい

うまくいけば行けるけど、ダメだつたら行けないかもって…

マサわまた金策にまわつた。

でもあと少しがまた足りなくて最後の最後に愛に頼んできた。

マサ：

「もう俺にわ愛しか頼る人がいなくて… こんな事ばかり言つて本当に『めさ。自分が情けない』

土下座をして頭を下げて愛に頼むマサ。

自分がみじめでカツコ悪くて情けないって思つてるマサの気持ちがひしひしと伝わってきた。

好きな人が土下座をして頭を下げる姿なんて見たくない。

そんな姿見るの辛いよ。

愛：

「頭あげて…」

その日マサわ愛がX-masにプレゼントしたネクタイをつけてた。

なんだかすこく切ない。

マサを信用しているけど、でも全部を信じきれない部分があつて不安が…

もしかしたら愛とわお金田的で付き合つてるかもれない…

マサ：

「やうじやないよ。愛の事好きだから、愛の将来の事を色々考えたりしてるので、好きじゃなかつたら考えないよ…」

確かにマサが愛の事を考えててくれているのわ、付き合ってからずっと感じてきた。

だから今までマサを信じてついてきた。

愛わお金を貸した。

マサ、信じてるからね…

資金繰りわ大丈夫になつたから予定通り温泉に行ける事になつた。

待ちに待つたその日。

お母前にマサが迎えにきた。

行き先わ富城県の松島海岸。

とてもいいお天気。

まだ3月だから寒いけど、一人でいればあつたかい。

マサわ疲れてるし、だから宿に直行してゆっくりしようと思つていつたけど、せつかく行くんだから見たい所決めておきなねつてマサが言つてくれてたから、遊覧船に乗つた。  
せつかくだから2階のグリーン席に乗つた。

マサと一緒に来れて最高に幸せ。

一人で写真をとつた。

宿について、二人でのんびり。

予約した貸し切り風呂に一緒に入った。

脱衣場で一緒に服を脱ぐ。

愛：

「なんだか恥ずかしいな（赤面）」

マサ：

「今更なに言つてゐるの～ 愛が入るのって言つたくな～（笑）」

お部屋からもお風呂からも海が全面に見渡せる宿で景色も最高。

愛わ湯舟の中でマサにびつたりくつついた。

マサ：

「愛、大好きだよ。」

愛：

「愛もだよ。」

毎日の寂しさや不安も忘れられた。

寝るのがもつたいなくて眠れない。

部屋から見える外の景色も、木が緑色の光でライトアップされてい

て綺麗。

疲れがたまつて「マサ」が先に寝ついた。

愛わ「マサ」の寝顔を見ながら「マサ」へひつひつと開いた。

…翌日わ雨。

「マサ」があるから今日わも見ずに帰るだけ。

「マサ」と一緒にいる時間もあと数時間…

高速道路の標識が地元に近づく度、寂しさがこみ上げてくる。

帰りたくない。

でも今回の旅行わかなり良い想い出になつた。

次また旅行に行けるのわいつかな。

思い出の写真を見て余韻に浸つた。

第11章 『血の破産』

「マサ」の体が日に日に弱つていく感じ。

具合が悪くなる事が多くなつていて。

食中毒をおこし入院した時に、胃に穴があいているのが見つかった。

ストレスたまつていいのから六もあるよな…

まだ若この辺の毛は白髪も混じてこむし相当苦労してこるので分かる。

マサわざんに辛くても弱い所を見せない。

でもそんなマサが…

マサ :

「もう最近どうでもよくなつてきた。  
この生活がこれからも続くと思つと気が狂いがちになるし、これから先どうなるか不安でたまらない」

「のっか用よく今まで頑張つてきたと思つ。

」これまで頑張つてきたのをやめよう。

愛だつて不安でたまらない。

「お金を片付けなきや一緒にになれないって言つて、そんな事言つたらこのままでは一生一緒にになれないよ。

愛わいつまで待てばいいの?

寂しても限界までてるか?」

「のまじやいられない。

前に、自己破産を勧めた事があった。

会社を潰す事だけわしたくないと黙っていたマサ。

でも今わ肉体的にも精神的にも限界まで来ているから、考えも変わってきたみたいで：

だいぶ悩んだみたいだけど自己破産をする事を決めてくれた。

今の大きい仕事が終わったら倒産をせりつて。

そしたら一緒に暮らせる。

愛わ今まで寂しさに耐えて、ずっと待つってきた。

信じてお金も貸した。

もし愛を裏切るような事があれば許さない。

愛：

「一緒に住む約束もしやぶつたら殺すから

愛も限界まで来てるから普通の精神状態でわなく、こんな言葉を口にした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5548e/>

---

愛のうた

2011年1月20日03時44分発行